専門研修プログラム名	医療法人静和会中山病院　　専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人静和会中山病院
プログラム統括責任者	関徹

専門研修プログラムの概要	本プログラムは主要な疾患の患者を受け持ち、面接、診断及び診療計画、精神療法、薬物療法の基本を学ぶ。統合失調症、気分障害、認知症、アルコール・薬物依存症、措置入院の症例は豊富であり、地域に根差した民間精神科病院の特徴を活かした幅広い臨床経験ができる。長年関連病院として研究・研修でのつながりの深い東京医科大学病院、杏林大学病院と専門研修を行うことで、当院での治療経験の難しい、思春期症例、摂食障害、睡眠障害、リエゾン精神医学、電気けいれん療法、クロザピン治療などを中心に幅広く学ぶことが出来る。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	基幹病院で2年間精神医学全般にわたる基礎研修を受けた後、連携病院で1年指導医の指導を受けながら、様々な精神疾患について自立して診断し治療計画をたてられるよう研修を受ける。地域に密着した慢性期医療、措置入院を含めた急性期医療、認知症等広く経験できるよう、研修指導を行う。当院で経験できない症例は連携病院で経験する。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	精神医学全般に対する理解を深め、問診、診断、治療（薬物、精神、社会的）、患者及び家族とのコミュニケーションスキルを指導医から学ぶ。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	カンファレンスや病状説明の場に出席し、指導医の指導の下、プレゼンテーションや病状説明、コミュニケーションの技術を学ぶ。
	学問的姿勢	日々の臨床を基本とし、主体的に疑問点問題点を常に持ち、必要に応じて指導医からの指導を仰ぐ。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	患者や家族の苦しみ悩みを理解し、苦痛を和らげるための努力を続ける姿勢を身につける。チーム医療に必要なコミュニケーション能力を身につけ、必要に応じてリーダーシップを発揮する。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	基本的に1～2年間を基幹病院で精神医学の基礎を学び、残りの期間不足している分野を連携病院で学ぶ。
	研修施設群と研修プログラム	基幹病院を中心に、連携病院である大学病院の研修を行うことにより、偏りのない研修を行う。

	地域医療について	当院は都心に近い立地であるが地域医療の特色が強い。
専門研修の評価	様々な専門の指導医が、知識に関する評価と技能と態度（医師としての態度や社会性を含む）に関する評価を集団で行い、評価が偏らないようにする。	
修了判定	研修プログラム統括責任者は、研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修修了判定を行う。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	専攻医及び研修プログラム全般の管理と継続的改良を行う。
	専攻医の就業環境	法定の労働時間を守り、専行医が過労に陥らないように配慮する。有給休暇取得も奨励する。
	専門研修プログラムの改善	研修プログラムの作成や、プログラム施行上の問題点の検討や再評価を継続的に行う。
	専攻医の採用と修了	採用担当者が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	何らかの事情でプログラムの移動、休止、中断、プログラム外研修が必要になった場合はプログラム修了になるべく影響の出ないよう臨機応変に対応する。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	定期的に連携病院の研修指導責任者と連絡をとり、専攻医の研修について情報交換し、不足点を改善する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	関徹（診療部・診療部長）、大塚綾乃（診療部）	
Subspecialty領域との連続性	基幹病院で認知症、社会療法を、連携病院でリエゾン、緩和、児童思春期精神医学を学ぶことができる。	